

平成24年度 京都府立大学地域貢献型特別研究 (ACTR) 成果

分類 番号	B 2	取組 名称	京都地域情報・文化遺産データベースの企画、コンテンツ作成
研究代表者： 文学部 職・氏名： 准教授・東 昇			
研究担当者： 京都府立大学（小林啓治、藤本仁文） 外部分担者・協力者（京都府立総合資料館歴史資料課）			
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名） 京都府立総合資料館文献課他			
【研究活動の要約】			
<p>京都府内に膨大に存在する文化遺産を、現在・未来の住民のための地域情報として、有効に利活用するデータベースの内容について検討した。</p> <p>その特徴は、1 現在の大字や町内会単位である江戸時代の村を基準とする。2 明治期の地域の歴史や産業、環境などの地誌をデータ入力し、現在につながる地域情報を検索可能とする。3 地域の文化遺産（神社の石造物や聞き取り）を調査、データ化しデータベースに組み込む、ことである。本研究では、このデータベースの企画を行った。また旧愛宕郡域（京都市左京区域）の明治期の地誌資料3件、のべ101村2436頁分の翻刻、データ入力を完了した。</p>			
【研究活動の成果】			
<p>上記の研究成果を『京都地域情報・文化遺産データベースの企画・展開・活用－明治期の「郡村誌」と近世村町別文書一覧－』として刊行した。内容は以下の3部構成とした。</p> <p>①京都地域情報・文化遺産データベースの企画 1 データベースの考え方、内容、画面の提案、2 明治期の資料の概要を分析。</p> <p>②京都地域情報データの展開 1 日本各地の領主別行政村配置図を作成、他地域と京都との関連性を提示。2 近世史料と「町村沿革調」を使い、18世紀の京都における町奉行所支配と寺社の個別領主権との関係性を解明。</p> <p>③京都地域情報データの活用 1 京都市左京区二ノ瀬の神社などの文化遺産（石造物）調査の報告。2 歴史学科学学生とともに取り組んだ、総合資料館寺子屋講座「松ヶ崎探検ウォーク」の企画・運営・調査に関する報告。神社に関する明治期の「郡村誌」と現在の聞き取りの内容を比較。</p>			
【研究成果の還元】			
<p>2013.3.17 京都府立総合資料館主催「地域の歴史を学び未来へ伝えるシンポジウム－洛北岩倉・大原・松ヶ崎の実践報告を中心として－」において成果報告、参加者240名</p> <p>2013.3.31 『京都地域情報・文化遺産データベースの企画・展開・活用－明治期の「郡村誌」と近世村町別文書一覧－』を刊行。（府下の図書館で閲覧可能（予定））</p>			
【お問い合わせ先】 文学部歴史学科 准教授：東 昇 E-mail: n-higashi@kpu.ac.jp			

参考（イメージ図、活動写真等）



二ノ瀬地区の文化遺産調査風景



「地域の歴史を学び未来へ伝えるシンポジウムー洛北岩倉・大原・松ヶ崎の実践報告を中心としてー」の様子